

## ケアポート板橋 特養4階

**症例概要** 認知症、症候性てんかん、てんかん重積状態・治療後、クロストリジウム腸炎・治療後、喘息、くも膜下出血(50歳頃)、右人工骨頭置換術

R2のご入居当時より入浴に対し抵抗感があり、入浴できない日が多くあるものの、R4頃から入浴を拒まれることが更に強くなり、一週間全く入れない状況が続いてしまう。入浴拒否改善計画の対象者とし、フロア全体で入浴の体勢を整え気持ちよく入浴できる様になった症例。

### 内 容

令和2年2月、入所当時は身体状況を鑑み、機械浴にて入浴対応しておりました。「お風呂は嫌いだ」との意思表示や、エレベーターに乗り込むこと自体を拒まれ、入浴できないことが多々ありました。機械浴(水、土)に加え、身体レベルが向上し座位が保てる様になったこともあり、リフト浴(火、金)対応を追加し、できるだけ多く声をかけ週に2回入浴できるよう対応してきました。

しかし令和4年頃から急激に入浴に対する拒否が強くなり、どの曜日に声をかけても入れない状況が続きました。ご自分の意思がはっきりとされている方であり他者の介入を好まず、洋服に対し執着が強く真夏でも上着を羽織るなど、乾燥がひどく皮膚状態も悪くなる一方でした。職員を交代しながらの対応や着替えをご自身で選んでいただく様にするなど、様々な工夫を実践してきましたが、状況は変わらずフロアにおいても対策に行き詰っておりました。

そこで令和5年度5月より、入浴委員会において「入浴拒否改善計画」を立案することとし、その根本的な原因を深く探るためチームで検討を始めました。ご本人がポジティブになるアセスメントを他業種で行い、PDCAサイクルを回し、「お酒を好む」「落ち着いた環境」「衣類が気になる」に対し、重要要因の検証から、対策を講じました。入浴後にお酒を用意し入浴後の楽しみを作り、落ちついた環境提供の為に一番風呂を準備。はじめは、「風邪気味だからいい」「入りたくない」と拒むこともありましたが、温かい空間や他職種での声掛けを根気強く継続し、段々と入浴拒否が減っていきました。

委員会でも毎回中間報告を行い、現状把握をしていきました。なかでも効果的であったのが、着替える洋服を選んで頂き、浴室まで一緒に来ていただくことでした。「入浴」とストレートな言葉は抵抗感があるようでしたが「着替え」は抵抗感が少ないことにも気が付きました。記録に残し共有し、入浴できた・できない理由と想定要因を検証していきました。入浴の回数が増えたことで皮膚状態の観察を以前より

も行えるようになり看護にも状況を伝えやすくなりました。

「入浴」から「着替え」へ。たった1つの言葉の変換で拒否がなくなることは職員としても大きな学びになりました。職員においても成功体験も増え「入れなくても挑戦してみよう」と前向きな考えに変わっていきました。ご本人も入浴後は毎回笑顔で「ありがとう」と話されています。

今後ご本人が笑顔で生活できるよう取り組みを継続していくとともに今回の学びを大切に、「学日続けること」「挑戦することを」忘れず介護を実践して参ります。